

特定非営利活動法人エファジャパン
2024年度年次報告書

2024 EFA JAPAN ANNUAL REPORT

すべての
子どもたちが
可能性と
創造性を発揮し、
自分ものがたりを
描ける社会に。



Empowerment For All
エファジャパン



人がいる限り、 エフ・アは本を届ける



未来へ読み継ぐ、
その手に届けるために

2024 年秋、能登。

仮設住宅に小さなブックカフェが開かれました。

まだ揺れる心を抱えた人々が、
本のページをそっとめくるその時間。

静けさの中に、かすかな希望が灯っていきました。

カンボジアの小さな村。

内戦の記憶が残る地で、
一冊の絵本を手にした少女がいました。

初めて本に触れたその目は、
涙をこらえながらも輝いていました。

「読むこと」への願いは、どんな境界も越えるのだと、
私たちはその瞬間、確信しました。

障害がある子どもにとって、
本はただの紙ではありません。

生きるための知識であり、
安心と自信の源でもあります。

学ぶこと、楽しむことに適切な本がないなら、
私たちがつくればいい。

そう決意し、教材の開発も始めました。

「本を読む時間」は、未来とつながる糸になる。

本は、ただのモノではありません。
それは、人と人をつなぐ力です。

そう信じる私たちエフ・ア・ジャパンは
国内外問わず、

災害の地でも、遠い国の片隅でも、
人がいる限り、本を届け続けます。

本がひらく、 色とりどりの 未来

子どもたちと、
もう一度夢を

私も先生になります

こんにちは。チョイリザーです。カンボジアのカンボットという町に住んでいます。私はいま13歳で、小学5年生です。

前はあまり勉強が好きじゃなかったけど、いまは算数が楽しくて仕方ありません。チルドレン・スタディ・クラブ(以下、CSC)に来るのが楽しみです。クラブの科尔チャンダラー先生が、わかりやすく、やさしく教えてくれるからです。

私はサッカーやバドミントンが大好き、でもいまは勉強も好きになりました。将来は、私も先生になりたいです。子どもたちに知識をわかりやすく伝えられる、そんな先生になりたいと思っています。



チョイリザーさん
(アングマックブリアング小学校5年生
13歳)



カンボジア



科尔チャンダラーさん
(アングマックブリアング
CSC コミュニティ教員)



カンボジア

本でつながる笑顔

サバイディー(こんにちは)。ラオス国立図書館 読書推進課のパイワン・ウドムナコーンシーと申します。私は、移動図書館の活動を担当しています。

私たちの移動図書館では、読み聞かせや絵を描く時間、音楽に合わせたダンス、自由読書やオンライン絵本の上映、工作など、子どもたちが楽しめるプログラムをたくさん用意しています。

なかでも、読み聞かせとダンスは子どもたちに大人気で、活動のたびに笑顔があふれています。

これまで私たちは、障害がある子どもたちが通う学校には訪問してきませんでした。けれどエファの協力を通じて、そうした子どもたちと出会う機会をいただきました。

初めて訪問したとき、本を手にした子どもたちの表情がぱっと輝いたのをいまでも覚えています。あの笑顔に出会えたことは、私たちにとっても大きな喜びであり、新たな気づきとなりました。

私たちはまだ障害がある子どもたちとの関わり方について学びの途中です。でも、一緒に過ごす時間を重ねることで、少しずつ理解を深め、本を通じて心がつながっていくを感じています。

これからも、より多くの子どもたちに本の楽しさを届けられるように。そして誰もが平等に、学びや感動に出会えるように、活動の輪を広げていきたいと思っています。

コープチャイ(ありがとうございました)。



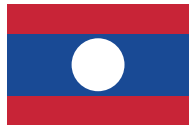
パイワン・
ウドムナコーンシーさん
(国立図書館 移動図書館担当)



ラオス

A colorful future unfolds through books

LAOS



ラオス

正式国名	ラオス人民民主共和国
首都	ビエンチャン
人口	758.2万人
一人当たりのGDP	2,067ドル（外務省より）

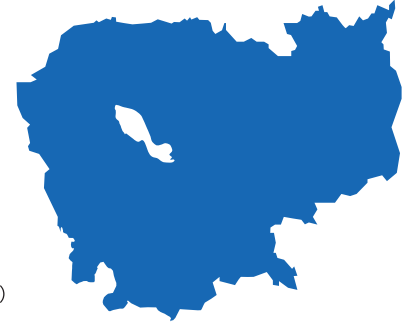


CAMBODIA



カンボジア

正式国名	カンボジア王国
首都	プノンペン
人口	17.1百万人
一人当たりのGDP	2,743ドル（外務省より）



思考とスキル向上のための 読書推進プロジェクト

「ラオス子どもの家財団」と協働で、障害児が多く通う2つの小学校で事業を実施しています。

●バサイ小学校：全校生徒60人
（内、障害児20人）

●サバントング・ヌー小学校：全校生徒56人
（内、障害児22人）

昨年度、小学校で使用されていない部屋を図書室として整備しました。それに加え、ラオス国立図書館と協働で両校において、移動図書館活動を実施しました。読み聞かせやゲームなどを通じ、読書への興味や学習意欲の向上が見られたことが報告されています。また、教員の質向上のため、NPO法人日本ラオス子どもの未来による「発達障害」をテーマとした研修ワークショップに参加をする機会を提供しました。

ラオス語でのマルチメディアデジ（タブレット端末で目と耳から読書を楽しむ、電子図書の国際標準規格）の開発を進めており、2024年度はラオス国立図書館員を対象に説明会を開催しました。

アジア子どもの家財団の事務所内に、障害の有無にかかわらず利用できるモデル図書室の整備を行っています。この図書室では、読書推進活動や音楽、ラオス伝統舞踊のレッスンを実施しています。

ビエンチャン都立図書館運営支援

ビエンチャン都の公共図書館の開館時間は、平日9時から16時、週末は閉館となっていました。仕事帰りの人や学生が利用しやすいように、平日は18時、土曜日は9時から12時まで、開館時間の延長を実施しました。それに伴い、職員への時間外手当を支給しました。

2004年から取り組んできたエファによる支援活動は2025年3月をもって終了となりました。今後はビエンチャン都情報文化観光局のもとで、自立した運営に向けた新たな一歩が踏み出されます。

小学校図書館・図書室運営支援

ビエンチャン都およびサワンナケート県の7校の小学校図書館・図書室の運営支援として、絵本や文房具一式を配布しました。またラオス国立図書館の職員も同行するモニタリングを行い、追加の技術指導等を提供しました。

子どもに関するデータ

5歳未満児死亡率：1,000人中40人
初等教育修了率：83%
前期中等教育修了率：54%
後期中等教育修了率：31%

障害がある子どものデータ

2015年の国勢調査によると、障害者数は176,857人で全人口の約14%。中等学校に進学する障害者は19.5%にとどまっています。

※子どもに関するデータはユニセフより。

カンボジア農村部の障害児の ライフスキル向上プロジェクト

障害児が通う放課後教室「チルドレン・スタディ・クラブ（CSC）」は、パートナー団体CADDPと協働で運営しています。2021年、カンボット州において30人からスタートしたCSCは、2024年度には3集合村で48人の子どもを受け入れました。

●ダムナック・アンビル集合村：17人
（内、女子9人）

●トラビヤング・タメアス集合村：15人
（内、女子13人）

●アングマックブリアング集合村：16人
（内、女子6人）

配置されたコミュニティ教員により、月曜日から金曜日までクラブを開館、子どもたちに学びの機会を提供することができました。コミュニティ教員の業務や事業の質の向上のため、図書館管理研修会や、カンボジア教育・青少年・スポーツ省が実施する「知的障害や自閉症の子どものためのインクルーシブ教育研修」で学ぶ機会を提供しました。

各クラブに設置した図書スペースや、CADDPのオフィスに設置されたモデル図書

室の活用を促すために図書館スタッフを1人採用しました。

また障害がある子どもが将来的に取り組める職業訓練として、有機野菜作り研修会を実施し、苗や種を配布しました。これを活用し野菜を作り、販売することで、自給自足につながり、家計の支出を削減できた等の効果が報告されています。

国立幼稚園教員養成学校（PSTTC） の奨学金支援

カンボジアで幼稚園教諭の免許が得られる唯一の学校である、国立幼稚園教員養成学校（PSTTC）に通う学生に奨学金を提供しています。

第7期国民選挙を経て、PSTTCの所管が教育・青少年・スポーツ省から公共事業省に移管され、受験の管理や実施も同省管轄下となるなど、組織体制が再編成されました。2024年10月に新入生の受け入れが行われたのに合わせ、翌11月に7人の学生に奨学金を支給しました。

プレアビハ州の奨学金支援

中学校、高等学校がないプレアビハ州の中でも、辺境地帯にあるイエン村の子どもたち3人に奨学金を支給し、中学校、高等学校への進級をサポートしました。奨学生は、優秀な成績を修めながらも、経済的な理由から小学校卒業後の進級をあきらめざるを得ない子どもたちの中から選出しました。

子どもに関するデータ

5歳未満児死亡率：1,000人中24人
初等教育修了率：82%
前期中等教育修了率：56%
後期中等教育修了率：27%

障害がある子どものデータ

2019年の国勢調査によると、小学校未修了率は障害のない子どもより高く、障害児は約55%。軽度の障害児のみが学校に受け入れられる傾向が強く、重度障害児の就学は困難な状況にあります。

※子どもに関するデータはユニセフより。

VIETNAM

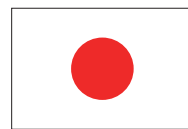


ベトナム

正式国名	ベトナム社会主義共和国
首都	ハノイ
人口	1億30万人
一人当たりのGDP	4,285ドル（外務省より）



JAPAN



能登



アジア子どもの家奨学金事業

1999年よりハイフォン市に500万円を委託、その受取利子を運用し、奨学金を提供しています。本奨学金基金は、ハイフォン市児童保護基金が管理をし、経済的に貧しいながらも優秀な成績を収めている子どもたちに奨学金を支給しました。

2024年度は、79人に1人当たり約5,000円の奨学金と文房具一式を贈呈しました。



子どもに関するデータ

5歳未満児死亡率：1,000人中20人

初等教育修了率：98%

前期中等教育修了率：87%

後期中等教育修了率：58%

障害がある子どものデータ

2～17歳の障害児は約66万人（人口の約2.83%）。就学率は過去の目標（2010年までに70%）に届かず、現状は40%程度との調査結果があります。

※子どもに関するデータはユニセフより。

レスキューキッチンカー &ブックカフェプロジェクト

2024年1月1日に発生した能登半島地震から、復旧・復興に進んでいた矢先、9月21日に同地を豪雨が襲いました。全壊19棟、半壊26棟、浸水が1,373棟。この内、仮設住宅の浸水が6カ所、計222棟にもぼり、「地震の後は『がんばろう』と思ったけれど、もう心が折れた」という言葉が飛び交うようになりました。少しでも温かい食べ物と、心を落ち着けることができる本を届けたいと思い、現地で炊き出しをしている、一般社団法人日本食育HEDカレッジのレスキューキッチンカー®とコラボレーションをして、石川県珠州市でブックカフェ活動を行いました。

11月2日：若山小学校（200人）

11月3日：大谷小中学校（120人）

2025年1月26日：蛸島第6仮設住宅（30人）

2月22日：蛸島第6仮設住宅（50人）

〈ブックカフェで聞かれた声〉

「地震前まではかぎ針が好きでいろんなもの編んどったんよ。でも地震で家もなくなって、かぎ針の道具はあるけど、なーんもやる気

にならんくてね。でも、こうやってここに来て、人とお話してかぎ針の本見たら『またやりたいなあ』って思ったよ」

「仮設住宅では花を育てるのも簡単じゃないけど、壊れた家のほうには土地はある。暖かくなったら、そっちに何か植えて、育ててみたいと思っているよ」

「まだ旅にはいけない。ここの仮設住宅から出られるのは2年後だろうか、その先だろうか？ 仮設住宅を出たらどこに行きたいもんだね」

「能登の置き本」 （日本出版クラブ震災対策室からの業務委託）

エファは、日本出版クラブ震災対策室の運営員を務めています。能登半島地震を受け、震災対策室からの業務委託として、公民館や仮設住宅の集会場に本棚を設置する「能登の置き本」事業を支援しています。

9月より能登半島の5自治体、35カ所に置き本を実施しました。

・珠州市：10カ所

- ・輪島市：7カ所
 - ・能登町：6カ所
 - ・穴水町：6カ所
 - ・七尾市：6カ所
- 本は定期的に入れ替えを行っています。

能登半島地震報告会

5月1日、8月29日、2025年1月29日に、能登半島地震オンライン報告会を開催しました。延べ179人のご参加をいただきました。

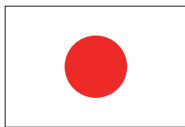
能登半島地震被害状況

2025年6月30日のデータ（石川県）

	死者	全壊棟数	半壊棟数
珠州市	173	1,756	2,104
輪島市	216	2,312	3,966
能登町	69	286	1,022
穴水町	51	387	1,289
七尾市	58	538	5,082
石川県全体	605	6,161	18,703

※死者は災害関連死を含む
半壊以上の公共建物：443棟

JAPAN



日本



2025年度に向かって

2024年度、エファジャパンは設立20年の節目を迎えました。

この一年は、私たちの活動の原点を見つめ直し、これからの歩みを見据える大きな転機でもありました。

ラオスやカンボジアでの障害児支援、能登半島での読書支援、そして国内外の多くの方々との出会いとつながり。

それぞれの現場が示してくれたのは、「本を届ける」という行為が持つ、目に見えないけれど確かな力でした。

人と人をつなぎ、言葉を介して自分と社会を見つめ直すための入口として、

本にはやはり特別な役割があるとあらためて感じさせられた一年でもありました。

2025年度、私たちはこの実感を軸に、3つの重点的な取り組みに力を注いでいきます。



第一に、困難な状況にある人びとへの読書支援を、「届ける」から「育てる」段階へと進化させていきます。

ラオスやカンボジアでは、障害がある子どもたちに向けた教材や図書室の整備にとどまらず、教員や図書館職員が読書支援の専門性を高めていけるよう、継続的な研修や人材育成の仕組みづくりに取り組みます。本は、知識を伝えるだけでなく、想像する力、表現する力、自分を肯定する力を育てるものです。その力がひとりひとりの中に根づくよう、地域の人びとと共に「読書の環境」を育てていくことを目指します。現地の教育行政や学校との連携を深め、読書支援が一時的なものに終わらず、地域の中で循環していく仕組みを整えていくことが重要です。

第二に、支援の担い手を広げ、エファの活動を「ともに担う場」へと変えていきます。

2024年度には新たに566人の支援者を迎えることができましたが、エファの原点でもある自治労の組合員の皆さんとのつながりは、まだ限定的です。2025年度は、自治労の各県本部、単組との連携をより強め、活動の意義が現場の声とともに届くような広報や企画を展開していきます。ポスターやリーフレットなどの紙媒体に加え、動画やSNSなど多様な媒体を使った発信も検討していきます。また、能登半島地震を機にエファを知ってくださった方々に、海外の読書支援と国内の被災地支援とが一つの線につながっていることを丁寧に伝え、継続的な関係づくりを進めます。参加しやすく、つながりが実感できる仕組みを増やしていくことが目標です。

第三に、組織としての持続可能性を強化し、安定的な事業運営体制を築いていきます。

エファが掲げる活動を確かなかたちで継続していくためには、収入源の多様化と財政構造の再設計が必要です。2025年度は、助成金の獲得をはじめ、エファパートナー制度や指定寄付の拡充、新たな参加型寄付メニューの導入などを通じて、多様で安定的な財源基盤の構築に取り組みます。また、図書館関係者や出版関係者との連携の機会を増やすことで、新たなネットワークづくりも模索していきます。同時に、事業費と管理費のバランスを見直し、少人数であっても機動力と信頼性を両立できる運営体制をつくっていきます。

私たちが届けているのは、ただの「本」ではありません。そこには、学びの機会、想像する自由、そして未来を描くための選択肢が詰まっています。子どもたちの未来にとって、それが当たり前となる社会をめざし、2025年度も一歩ずつ歩んでまいります。

エファジャパン事務局長 関尚士

エファジャパン20周年

2024年はエファジャパン設立20年目の年でした。感謝の気持ちを直接伝えるためにイベントを開催し、延べ300人を超える皆様のご参加をいただきました。ありがとうございました。

6月15日：エファシンポジウム2024「アクセシブルな社会へ～本の飢餓の解決に向かって」(東京都)

7月28日～8月8日：ラオス事務所ソンバンススタッフ招聘イベント「アイするソンバンがやってきた」(愛知県、広島県、大阪府、東京都)

12月7日：未来と一緒に描いてくれる人とともに一映画「僕が跳びはねる理由」上映と江戸太神楽曲芸師・鏡味仙成さんによる曲芸とトークショー

外部主催のイベントへの参加

外部主催のイベントにも積極的に参加しました。4月27日、代々木公園で開かれた第95回メーデー中央大会や、8月29日の自治労第98回定期大会に出展し、フェアトレード商品

の販売や活動報告を行いました。

11月5～7日にパシフィコ横浜で開催された、第26回図書館総合展にブース出展するとともに、震災フォーラムの企画・司会進行を務めました。

2025年1月26日には、文部科学省と藤沢市民活動推進機構が主催の「共に学び、生きる 共生社会コンファレンス」でカンボジアにおける障害児の読書推進について、活動事例を報告しました。

障害があってもなくても！

「誰でも受けとめてくれる」

学び、遊べる図書室をつくりたい

クラウドファンディングに挑戦し、288人もの方々から2,427,000円のご支援をお寄せいただきました。支援者の皆さんからは「みんなが笑顔で大きくなれますように」「この支援をさせていただいたおかげで、私にも夢ができました。いつか私もラオスに行って、移動図書館と本を読んでいる人々の姿を見たいです」という温かいメッセージも届いています。

リサイクル募金「ぐるりと。」

「ぐるりと。」は、本、CD/DVD、ゲーム、切手、ハガキ、年賀状、要らなくなった骨董品やブランド品、懐かしのおもちゃ、衣服など、不要品を捨てずに「国際協力」へ活かす仕組みです。

2024年度は読まなくなった本の支援が53件ありました。昨年度から呼びかけを始めた衣服の支援は419件もありました。

「ぐるりと。」全体で、562,464円もの寄付となりました。

動画を使った広報

活動紹介だけでなく、現地の生活の様子も伝える動画を30本製作、配信しました。

566人が新たなご支援者に

設立20周年を機としたイベントの開催、ファンドレイジングキャンペーンなどを通じて、566人もの皆さんが「本の力」でこの世界を変えていく仲間になってくれました。

2024年度会計報告

活動計算書 [税込] (単位:円) 自2024年4月1日 至2025年3月31日

I. 経常収益		
受取会費	3,000,000	
受取寄付金	30,451,951	
受取助成金等	2,004,894	
事業収益	1,024,268	
その他収益	39,422	
経常収益計	36,520,535	

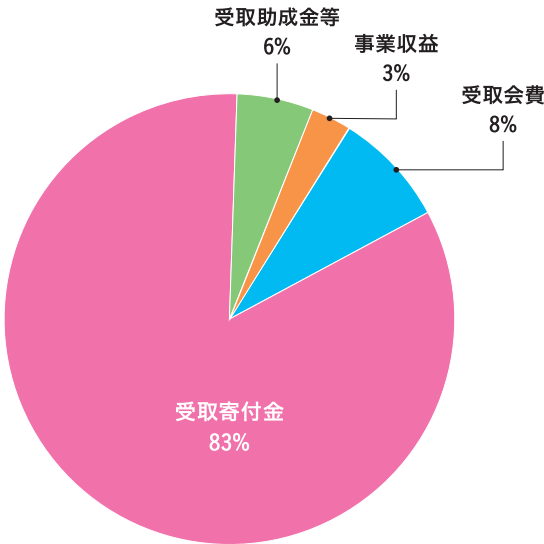
II. 経常費用		
事業費		
ベトナム事業	484,067	
カンボジア事業	10,007,461	
ラオス事業	11,222,453	
緊急支援	7,285,546	
国内事業	7,135,380	
収益事業	541,819	
事業費計	36,676,726	
管理費		
人件費	4,307,518	
その他収益経費	3,890,266	
管理費計	8,197,784	
経常費用計	44,874,510	
当期経常増減額	△ 8,353,975	

III. 経常外収益計		
過年度損益修正益	0	
経常外収益計	0	

IV. 経常外費用		
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額	△ 8,353,975	
法人税、住民税及び事業税	70,000	
当期正味財産増減額	△ 8,423,975	
前期繰越正味財産額	35,998,598	
次期繰越正味財産額	27,574,623	

2024年度収入・支出の内訳

収入 36,520,535円



貸借対照表 [税込] (単位:円) 2025年3月31日現在

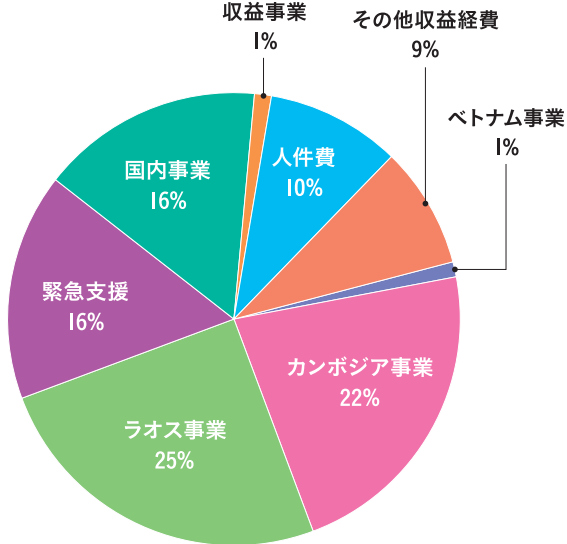
I. 資産の部		
(1) 流動資産		
現金・預金	27,715,635	
未収金	483,635	
棚卸資産	83,805	
その他流動資産	1,084,689	
流動資産計	29,367,764	
(2) 固定資産		
敷金	1,440,000	
固定資産計	1,440,000	
資産合計	30,807,764	

II. 負債の部		
(1) 流動負債		
未払金	792,220	
預り金	200,021	
未払法人税等	70,000	
流動負債計	1,062,241	
(2) 固定負債		
退職金引当金	2,170,900	
固定負債計	2,170,900	
負債合計	3,233,141	

III. 正味財産の部		
正味財産		
前期繰越正味財産額	35,998,598	
当期正味財産増減額	△ 8,423,975	
正味財産合計	27,574,623	
負債及び正味財産合計	30,807,764	

【貸借対照表の注記】
正味財産中、使途等が制約された寄付金(指定正味財産)は、840,928円です。計算書類の注記2でその内訳を報告します。

支出 44,874,510円



計算書類の注記

注記I: 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日策定 2017年12月12日改定NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

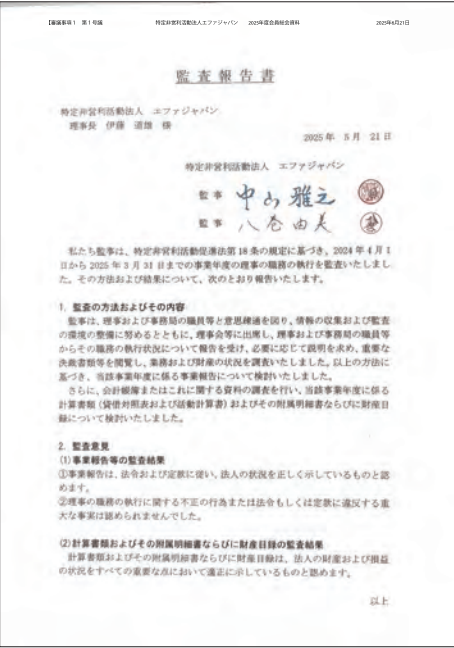
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は法定評価方法によっています。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金:職員の退職給付に備えるため、退職金規程に基づく期末法人都合要支給額により計上しています。

		(単位:円)			
		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
●ラオス					
自治労東海地区連絡協議会	ビエンチャン都立図書館・多目的ホール運営管理費支援(支援期間:2018年11月～)	271,014	-	211,842	59,172
自治労青森県本部	ドンクワイ村小学校図書館支援(支援期間:2019年1月～)	30,000	30,000	34,717	25,283
自治労三重県本部	サンバンナ村小学校図書館支援(支援期間:2019年9月～)	50,000	50,000	49,784	50,216
自治労東海地区連絡協議会	ナーハンケー村小学校図書室支援(支援期間:2018年11月～)	100,000	100,000	135,715	64,285
自治労広島県本部	サントン郡小学校図書室支援(支援期間:2020年1月～2024年12月)	284,095	-	226,557	57,538
自治労広島県本部	サントン郡小学校図書室支援(支援期間:2020年1月～2024年12月)自治労本部(調整費)	105,819	-	45,311	60,508
●カンボジア					
一般社団法人鹿児島県労働者福祉協議会	(支援期間:2012年4月から～2023年3月)	-	300,000	300,000	-
●緊急援助					
奥能登を走る!ブックカフェ	クラウドファンディングからの寄付	-	1,025,500	691,289	334,211
合 計		840,928	1,505,500	1,695,215	651,213

監査報告書



注記3: その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

事業費と管理費の按分方法

- 共通する経費のうち、給与手当、賞与手当、法定福利費、旅費交通費(人件費分)については、従事割合に基づき按分しています。
- 共通する経費のうち、地代家賃、水道光熱費、リース料については、人件費の従事割合および従事期間に基づき按分しています。

※ここに記載された内容は、財務諸表から抜粋したものです。
より詳しい会計報告をご覧になる場合は、ウェブサイト
[https://www.efa-japan.org/efa-japan.org]の年次報告ページをご覧ください。



エファジャパンの組織

2025年3月31日 時点

【会員】

正会員 94人
シニア会員 44人
賛助会員個人 26人
賛助会員団体 28法人・団体

【エファパートナー】

エファパートナー個人 80人
エファパートナー団体 49法人・団体

【役員】

理事長	伊藤 道雄	特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21) チーフアドバイザー
副理事長	石上 千博	全日本自治団体労働組合 (自治労) 中央執行委員長
理事	青木 真理子	自治労共済推進本部 本部長 (自治労共済生協理事長)
理事	太田 阿利佐	元毎日小学生新聞 編集長
理事	木下 究	公益社団法人東京自治研究センター 理事
理事	栗本 正則	特定非営利活動法人FAIR ROAD 副理事
理事	関 尚士	特定非営利活動法人エファジャパン 事務局長
理事	玉井 一匡	玉井一匡建築研究所 代表
理事	渡戸 一郎	明星大学 名誉教授
監事	中山 雅之	国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 教授
監事	八巻 由美	全日本自治団体労働組合 (自治労) 総合企画総務局長兼国際局長
顧問	イーデス・ハンソン	公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 特別顧問

【事務局】

事務局長	関 尚士
プログラムマネジャー	鎌倉 幸子
プロジェクトコーディネーター	チッタウォン・フォンサワン (ミン)

【エファジャパンが実現したい社会 (ビジョン)】

すべての子どもたちが可能性と創造性を発揮し、自分ものがたりを描ける社会に。

【エファジャパンの使命 (ミッション)】

- どんな困難な状況にあっても、未来を拓きたいと願うアジアの子どもたちに、教育を通じて生きる力を培います。
- アジアの開発途上国の障害がある子どもたちが、安心して生きられる環境を家族やコミュニティと共に創ります。
- さまざまな価値観と文化に触れ、多様性を豊かさとして捉え、アジアの子どもたちが、共に生きることのできる社会づくりに、地域の人々と取り組みます。

【エファジャパンの行動指針 (バリュー)】

- 一人ひとりの違いを認め合い、尊びます。
- つつみこみ、みまもり、みとめあう家族、コミュニティの力を支えます。
- 選択肢という可能性を生みだし、広げます。
- 最適な“情報”、“居場所”を届けるために、より良い手段を考え抜きます。
- 自らが変わろうとする意志と行動を応援します。
- 共に歩み、学び、成長します。

ごあいさつ

平素よりエファジャパンの活動にご理解とお力添えを賜り、心より御礼申し上げます。

2024年の元日、能登半島を襲った地震は、地域の人々の生活に甚大な被害をもたらし、私たちのところに深い痛みと記憶を刻みました。「いまはボランティアの派遣は待ってほしい」との地元自治体からの要請が出されていた段階から、エファは準備を始め、当スタッフと「本」を被災者の方々に届け「こころの憩い」の場としての「ブックカフェ」の事業を始めました。そして事業が広がるにつれ、「また読書を始めたよ」「手芸をしてみようか」と前向きに語る人たちの声が聴けるようになりました。「本」が再び、人々の時間を動かし始めたことと事業担当スタッフが実感した瞬間でした。

海外では、1年を通してラオスとカンボジアの農村地域で、障害のある子どもたちのための学びの場づくりを行いました。誰もが自分に適した形で本に触れ、単に知識を得るだけでなく、学ぶ力、想像する力、家族や友だちを通して自分を見出す力を育めるよう、利用しやすい教材づくりや図書室の運営支援を行ってきました。

新年度においてもこの活動をさらに進め充実化してまいります。

2025年は、第二次世界大戦の終戦から80年を迎えます。幸い日本はこれまで戦争に巻き込まれず、平和な環境にあります。しかし、世界各地ではいまなお、戦争や紛争が続いています。このような状況下で、かつて日本やカンボジアで「本の疎開」が行われた歴史があったことをあらためて思い起こし、その意味を皆さんと共に、考える一年にしたいと考えます。私たちは、本がもたらす力は、単に知識をもたらしだけでなく、想像する力、そして未来を描く力でもあることをあらためて実感しています。子どもたち自身が自ら未来のものがたりを描けるように。

地域社会でそして国境や国籍や文化の違いを超えた子どもたちの未来を、皆さまとともに育んでいけるよう、共に歩んでいただければ幸いです。



特定非営利活動法人エファジャパン

理事長 伊藤 道雄

人がいる限り、エファは本を届ける。 エファパートナー募集

いま、この瞬間も「本に出会えない子どもたち」がいます。
世界のどこかで、知識への扉が閉ざされている子どもたちがいます。
本を手にするだけで広がるはずの可能性の存在に気が付いていない子どもたちもいます。
でも、あなたの支援があれば変えられます。
月1,000円から始められる「希望の架け橋」
エファパートナーは、月々1,000円からの継続支援で「本の飢餓」撲滅に取り組むマン
スリーサポーター制度です。
【あなたの1,000円が生み出すもの】
●子どもたちの手に届く4冊の本
●新しい世界への扉を開く鍵
●未来への希望という名の種
ご支援は、その時々で最も必要とされる活動にあて、大切に活用させていただきます。
一人ひとりの小さな支援が、やがて大きな変化となって世界を照らします。
今日から、あなたも「本の力で世界を変える仲間」になっていただけませんか？

お申込み・詳細は特設サイトをご覧ください

【パートナー特設サイト】<https://www.efa-japan.org/partner/>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

エファは、SDGsの達成に向け行動します。



特定非営利活動法人エファジャパン 2024年度年次報告書
2025年9月15日発行

発行人	伊藤道雄
編集協力	(株)MAG MAG、蒔田清二
発行所	特定非営利活動法人エファジャパン 〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階 TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338 Email:info@efa-japan.org https://www.efa-japan.org/

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。

アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。

※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。